

氏子の皆さんへ



令和7年5月吉日  
八幡宮  
宮司 神道 守男

なごしのはらえ  
「夏越の大祓」 斎行のご案内

日頃は八幡宮に多大なご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、八幡宮年中行事の一つであります「夏越の大祓」を、下記により斎行致します。  
氏子の皆様には、多数お参り下さいますようご案内申し上げます。

記

日 時：令和7年6月30日（月） 午後4時より

場 所：八幡宮 境内

ひとがた  
人形で身体をなで、息を吹きかけることにより、半年の穢れや罪・過ちを人形にうつし、神職がお祓いをいたします。

穢れ祓いの人形につきましては、社務所にお声かけください。

なお、茅の輪は、7月6日撤収予定です。設置中はご自由におくぐり下さい。

おおはらえ  
大祓は日本人の伝統的な考え方に基づくもので、「常に清らかな気持ちで日々の生活にいそしむ」よう、自らの心身の穢れや災厄の原因となる諸々の罪・過ちを祓い清めることを目的としています。

この行事は、古事記や日本書紀に見られる伊邪那岐命の禊祓を起源とし、宮中においても古くから行われてきました。

中世以降、各神社で年中行事の1つとして普及し、現在では多くの神社で毎年行われる恒例式となっています。

また、年に2度行われ、6月の大祓は夏越の祓、12月の大祓は年越の祓とも呼ばれます。

大祓では、おおはらえことば  
大祓 詞を唱え、人形と呼ばれる人の形に切った白紙などを用いて身についた半年間の穢れを祓います。

神社によっては、無病息災を祈るため茅や藁を束ねた茅の輪を神前に立て、これを3回くぐって穢れや災い、罪を祓い清めます。

特に、夏越の大祓では、

みなづき なごし はらえ ちとせ いのち  
「水無月の夏越の 祓 する人は千歳の 命 のぶというなり」

と唱えます。

神社本庁HPより引用【段落ふり仮名等調整】